

## 「探究学習・調べる学習ひろば」参加者のコメントから\_3

5月31日(土)20:30~22:00に実施された「探究学習・調べる学習ひろば」の第2回では30名が参加、そのうち事後のアンケートに12名が回答して下さいました(青文字)。以下抜粋引用するとともに、簡単な回答・コメントを記します(※…片岡 / ★…山崎)。

また、リスナーから希望が多かったアーカイブ配信も始めました。Googleアカウントをお持ちの方限定ですが、リンク先のGoogleDriveから視聴&資料が読めます。→([アーカイブ配信/資料置き場](#))

### 夏休みのフィールドワークは探究学習の”華”

フィールドワークは夏休み行う事が多いですか？ フィールドワークの指導についてをやっていたけるとありがたいです。(高等学校学校司書)

※夏休みが中心です。詳しくお話する場面があってもいいですね。フィールドワークこそ探究学習の”華”なんだと思ってます。

★先日は御校の分掌会議に呼んでいただきありがとうございました。あの場で話したことがFWの中心ですが、勉強不足で夏休み中に取材ができなかった場合は、夏休み明けの2学期中に挑戦することもあります。

### 清教学園の「映画」の書架

今回も途中参加でしたが、勉強になりました。映画関係の資料があまり入っていないことに気づきました。参考にさせていただきます。ありがとうございました。(私立高校学校司書)

※映画の棚の画像があってもいいですね。これからは扱う主題の解説のときに、本棚の画像を写しておしゃべりする、というアイデアが湧きました。有難うございます。南さん乗り物の本棚撮影していませんか？(他力本願)('◇')ゞ

★山崎のほうで撮影してみました。次ページ以降、5枚の写真を入れてます。画像小さいとぼやけるので大きめに…。映画棚は写真のような感じです。拡大で見えるかな？次ページまで続きます。作品論、撮影方法、ウルトラマンに仮面ライダー、時代劇…かなり色々ですね。アニメまで撮っちゃった。











## 血液検査の「コスパ」はいい

初めて参加させていただきました。先生方の手厚い指導を垣間見ることができ感激です。一方で、これを教科の授業を持ちながら、いち分掌としての「探究係」で回していくことを考えるとかなりハードワークになるなあと感じてしまいました…(笑) 司書教諭を置くことのできる学校さん、羨ましいです。

当校(かなりの小規模校)で昨年度、司書さんにブックリストを作成していただき生徒はそれを活用するかたちで探究を行ったのですが、やはり生徒一人ひとりに教諭がコミットするのは大変でした。アンケートでの「血液検査」、参考にさせていただきます。(普通科高校教諭・音楽)

※コメント有難うございます。たしかにハードではあるのですが、そこに楽しさがあるので続けているのだと思います。こうしたメッセージのやり取りも一般科目ではいつでもというわけにはいきません。なんだかんだと、おしゃべりみたいなことが、結局探究学習の支援になっているのだと思います。「血液検査」は検査だけでもいいんです。毎回全員が難しい時もあるので、部分的に返事をしたり、まったくしなかったりということもあったような。でも、その生徒の報告を全生徒が見ているので、それはそれで何か効いているおだと思ってます。

★この進捗アンケートの方法を色々な学校で紹介するのですが、本校のような卒論指導はさておき、生徒の探究進捗に対するコメント自体は「やれそう」と仰る先生多いですね。提出物に対するマルつけやコメントとそう変わらないので、やれんこともないなという感じです。それこそ、司書の方にレファレンス部分を、先生は研究支援のコメントを、とわけてもいいのかもしれない。「コスパ」はいいですよ。これで生徒のやる気が上がったり、様子がみえるなら、安いもんです。

## エンタメ分野の生徒のこだわり

今日もありがとうございました。エンタメ系のフィールドワークのお話が聞けて貴重な時間となりました。昨年度、うちの自由探究でも特撮はやはり男子が2名ほどおりました。1人はスーツアクターなりたくて、1人は番組制作したい人でした。なかなか時間が取れない中、月一でアンケートを出すのも出されるのも大変だろうなあと思いましたが、継続的な支援、生徒と先生の関係性の上でも大事ですね。モチベの話は実際のPDF資料を見せて頂き、なるほどこういうものか！と目からウロコです。ご提示頂き、ありがとうございました。エンタメでは、動画を作りたい子やアイドルやライブを探究している子が居ます。別のエンタメ回があればそちらもぜひお聞きしたいです。(中学校司書)

※エンタメやはりでますよね。「エンタメ＝おちゃらけ」に関してはテキストで「『おちゃらけ』分野を真面目に探究しよう」の項目にまとめてありますのでご参照ください。意外なパワーを発揮する分野で、印象的な作品やフィールドワーク報告が上がってきます。テレビラジオ以外にも、まだまだエンタメの分野にはいろんなグループがありますのでお楽しみに。

★論文の授業も「繁忙期」みたいなものがあって、夏休みのフィールドワーク前や、論文が実際に書き溜まって論に仕上げていく添削の時期以外は、意外と穏やかだったりします。そういう意味では、忙しくない時期から月イチアンケートでモチベが保てたり、いい雰囲気教室が作れるなら、けっこう「コスパ」のいいやり方なのかなと。こちら、学年団に入っておらず、ともすれば生徒の顔や名前が

一致しなくなることが多いので、こうしてテーマや研究内容で生徒の様子を知る機会を大事にしています。

## 中学生とテレビ放送

視聴率のお話もう少し聞きたかったです。(中学校司書)

※視聴率は2009年に1人題材にしています。番組に大きな影響を与える指標ですが意外とまとまった本がなかったような…？ 広告収入が減少しチープ化しているとも言われますが、中学生にとってテレビはまだ影響力があるように感じます。

★一昨年、生徒が取材したテレビ放送の専門家の方は、「もう視聴率は番組評価の指標にはならない」と仰ってました。テレビ研究もかなり変化の時代なのかもしれません。

## 映画の本いろいろ / 探究で本棚が育つ / 選書の方法 / 件名入力 / テーマ重複時の貸出

(全体への感想) 今回もありがとうございました。前回に引き続き、非常に熱いコメント返しをしていただきありがとうございます。毎回自分の振り返りも兼ねて長々と感想を書き留めているのですが、とりとめのない悩みに先生方がひとつひとつ丁寧に答えてくださっていることに感謝しかありません。このコメント返しは進捗アンケート「なんでやねん情報」と同じことをしている、と説明されていたのですが、質問に対して熱心なコメントが返ってきた生徒の気持ちがとてもよくわかります。対面の面談テクニックとは少し違うのかもしれませんが、「なんでやねん情報」のコメント返しがあることで、他の人のテーマや進捗状況、言語化できていなかったけど同じような悩みを抱いていたことに気付く、そのコメント返しが参考になる…と、生徒にとって色々得るものは多そうだなと思いました。

参加者としても、ほかの方の質問やコメントを見ながら、リアルタイムでほかの参加者の方とのやりとりがなくとも、同じひろばに参加している人がどんな疑問や感想を抱いたのか、言われてみればそこは気になっていたかも…というような質問がとても参考になっています。

また、アーカイブや資料配信もありがとうございました。リアルタイムで参加できる時はしっかりと聞いて、後日振り返りで聞けるのはとても助かります。

(「映画」「放送」に関する感想・質問) テーマ一覧を拝見していて、以下の2作品が気になりました。- 映画館におけるコンセッション方式においてなぜポップコーンとチュロスが伝統的な商品であり続けたのか- なぜ映画館で「応援」するのか:観客同士の一体感 本校では作品研究はあまり見たことがないのですが、いわゆる推し活や、映画館での過ごし方(なぜエンドロールまで見ないで帰る人がいるのか等)、コンセッション方式(なぜ映画館ではポップコーン?)をテーマにする子が多く、そうすると図書資料はあまりないような気がします。技術評論社や秀和システムの業界研究本を例に挙げていましたが、それ以外で過去参考文献として利用された本などありますか?(特に上記2作品の研究中)

(前回のコメント返しからの感想)

司書・司書教諭が探究の授業を担当することについて、前回のコメント返しで言及されていましたが、「まさに今実感していることだ!」と思いました。

探究を始めてから、生徒が「睡眠」を選べば睡眠の本を、「ディズニー」であればアニメ・映画・商業・テーマパークの本を、と本を集めてきたことで、3年前の探究で使うために買った本が、今年の探

究で多く利用されていること、それは授業者から提供したわけではなく、自分で本棚からピックアップしてきたこと……探究で図書館を使うことで、図書館も一緒に育っていることを日々実感しています。図書館に関わり始めた当初は資料も少なく除籍もされておらず、配架もバラバラで取りづらく…と課題だらけでしたが、時間はかかりますが、少しずつ効いてきていることを実感しています。

(選書についての質問)

毎回、テーマに対して使用した本で「これは使える」といった情報がいただけるのでとても参考になります。リブラリアのTwitterで紹介されている本もよく参考に選書をしています。先日紹介されていた「夜ふかしの社会史」は、今まさに該当テーマを調査する子がいるので、「これだ!」と思って即日購入しました。

清教学園では、普段どのように探究に関する選書をしていますか? 本校では、まだ資料数が足りないこともあり、いったん生徒に図書館を探させて、見つからないときに案内して、それでも見つからないときは一緒に出版社のサイトで目次や試し読みを読みながら、リクエストを受け付けたりしています。すると、授業に間に合わせるために急ぎAmazonビジネスで購入したりすることもあり、現状生徒のリクエストベースになっている部分もあるのですが、図書館界的には「ちゃんと選書しなよ」となる部分だろうな…と思いつつ、意外と生徒の方が面白い(自分が読めると思うレベルの)本を探してくるよな…と思うこともあります。

前回のコメント返しに以下のような返答がありましたが、>「ノンフィクションの受け入れ業務は生徒の研究テーマを見て発注、司書室で見計らいして選書」①選書方法 ②選書や見計らい、受入から提供まで全体のスピード感をお聞きしたいです。

(件名について)

探究で生徒へのレファレンスをする際に困ったとき、リブラリアのLibFinderを見て参考にしますが、やはり検索ワードに引っかかるように件名がかなり色々書かれているのが凄いなと毎回感心しています。前回のコメント返しでもオリジナル件名について触れられていましたが、業務上の基準などあるのでしょうか?(例えば、目次の単語は記載するなど)

(参考資料の資料数や貸出について)

同じテーマの子が学年に3人いた、と言う場合、資料の扱いはどのようにしていますか? 複本の用意や、貸出せず授業時間に必ず利用できるよう館内取り置き、貸出期限の短縮など、色んな手段があると思うのですが、清教学園さんはどうされていますか? 本校では、一定期間の貸出禁止処理と、館内に設置した「探究の棚」に別置して、授業時間のたびに自分で持ってくるようにしています。

毎回学ぶことや気付くことが多く、自身の取組を振り返るきっかけになっています。「ひろば」の開設・運営本当にありがとうございます。引きつづき楽しみにしております。(中高一貫校中高司書/司書教諭/探究科)

※ご感想ありがとうございます。熱いコメントには熱く応えてしまうものですね。

映画関係の統計が基礎ですが↓

[https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/humanities/post\\_101107](https://ndlsearch.ndl.go.jp/rnavi/humanities/post_101107)

ここまで深掘りできる子はあるまいいなかったような。ただこの↓サイトはよく使っていました。

<https://www.eiren.org/toukei/index.html>

日本映画製作者連盟はいわゆる業界団体で統計の取りまとめをしています。

ここにあげた2作品の参考文献は以下の通り

コンセッション↓

斉藤守彦(2009)『映画館の入場料金は、なぜ1800円なのか?』ダイヤモンド社

松尾里央(2008)『あの映画は何人みれば儲かるのか?』TAC

粟田房穂(2013)『ディズニーリゾートの経済学』東洋経済新報社

加藤希(2009)『世界の映画館』株式会社パイ インターナショナル

(2002)『ポプラディア』ポプラ社

応援↓

奥田瑛二(2013)『映画館の作り方』映画芸術編集部

近藤好紀(2008)『映画、映像業界大研究』産学者

西田宗千佳(2015)『ネットフリックスの時代』株式会社講談社

(2022)『ポプラディア』ポプラ社

…あんまりズバリの本ではなさそうです。コンセッションの子はお家でチュロスを揚げておりました('◇')ゞ3年で蔵書が豊かになっていることを実感されている…そうですね! 生徒の踏み分けた小径があると後輩もその道を見ていきますから、御校らしい蔵書が育っていくのかもしれない。選書や受入・件名。除籍の話もどこかですたいですね。それぞれ30分はかかりそう。

資料重複は「早いもの勝ち」で公共とかわりません。ただし、この本はあの生徒とこの生徒が読むべきだろうというときは「まわしてよんでね」とかいいますね。

★前回のリスナーコメントで「心理的安全性」に言及して下さった方がおられました。このなんでやねん情報もその一因になっているのだと思います。実は論文の授業だけでなく、他学年の探究の取り組みでも同様のことをしているので、「総合のアンケートは、なんか書けば必ずなんか返ってくる、なんでも書いていい」と、生徒も思ってくれているのかもしれない。

選書について。あー、Twitter見て下さってる方がここにも。地道に投稿しているのですが、ありがたいですね。たとえば生徒の進捗アンケートを見ながら、目的をもって本を探すときは、大学研究者のおすすめ本や、それこそアマゾンで関連に出てきた本をサーフィンすることが多いです。目的の無い選書として、出版社からの新刊情報などももちろん見ますし、一番多いやり方は、自分のTwitterアカウントに図書館関係者や大学関係者、書店、出版社…など業界の人を大量に登録しておく、新刊情報や話題の本の情報など結構流れてきます。感想や解題も事前に見られます。そうした投稿をアーカイブしておき、職場で発注かけるということをよくやります。そういえば、夜更かしの社会史もTwitterで見かけたのでした…。僕はTwitter多いですね。

見計らいについて。①選書方法、先述したように基本は自分たちが発注した本なのですが、書店が届けてくれたあとに見計らい棚に並べてざっと読みます。目次から本論、結論、終章…いわゆるためし読み程度です。その上で、中高生が論文書くときに使えるか否か、みたいなことを考慮して判定します。

事前に選んでる本が多いので、落とす本はそんなに多くないかな…？②提供までのスピード感、時期や忙しさによりますが、概ね2週間以内には…という感じなのかなあ。すみません、このあたりは正確ではないです。ただ、論文のテーマに使うことがわかっている資料については優先して登録しています。ほんと最短で2・3日くらいで。

件名について。えー、うちのOPACまで使ってくださってるんですか。それは嬉しいなあ。登録件数がいちばん多い、司書の先生にも伝えます。入力の基本はなく、スタッフそれぞれやり方は異なるかも…。資料にもよりますが、僕のやり方だと、目次のキーワード、テクニカルタームは全て拾います。目次にそれらワードが含まれていない場合は、各ページの小見出しから拾います。小見出しにもない場合は、ざっと斜め読みしながら拾います…。分野の上位語は書いてなくても入れることがあります。類語も、生徒の言葉に合わせて入れることがあります。ポーカロイド⇒ボカロとか。統一件名で書誌をコントロールするような、理論的な図書館学からすればかなり御法度なことをやっていますが、正直言って現場で教えている身からすると、例えばSLAの学習件名などは生徒の検索実態に耐えられません。難しすぎるし、それだけが件名登録されていたのではたぶんOPACでヒットしません。そうした実情を踏まえて、自分たちなりに入れています。

テーマ重複時の資料貸出について。これもよく聞かれます。複本は入れません(学級文庫事業を除く)。予約以外の取り置きはしません(進捗アンケートを通じたレファレンスで用意した資料を除く)。貸出期限は2週間が通常ですが、研究用途であっても全員同じです。特別に「探究の棚」も作っていません…。ではどうするか。重複テーマといっても、ほとんど問題にならないんですね。例えば「犬」について研究がしたいという3名が居た場合、まあ犬に関する本は色々あるんですが、学習が進むにつれてテーマはそれぞれ深まっていきますよね。書架に立った時に、「ヒトとイヌの関係性、人類史」「軍用犬、帝国陸軍の軍犬報国運動」「災害時のセラピードッグ活動」など、生徒のテーマは個々の興味に応じて変わっていきます。読む参考文献も多様になります。そのため、あまり問題にならないのです。必要に合わせて資料を買う、あるいは経年で多様な「犬」関連の資料が書架を構成するようになる、というイメージです。一方で、そうした多様なテーマへの展開があってもかぶるときがあります。そのときは予約で「早い者勝ち」「予約したものの勝ち」になります。二週間が期限なので、熾烈なバトルの際は二週間ごとにとりあいになりますね。でもあまりないなあ、そういうことは。過去、「ドクターヘリ」でそういうことがありましたが、生徒がお互い協定を結んでいましたね。互いの付箋を剥がさないようにする、返した時は声をかける、みたいに。あんまり制度でがんじがらめにしなくてもいいのかもしれないですね。

Twitter、ほとんど片手間で、元気がないときは全然投稿できないのですが、見て下さってる方、活用して下さってる方からコメントもらえると頑張れそうです。

## 探究学習、学校内での共有 / テーマの重複

"本日もありがとうございました。教員も生徒のみならず保護者にも探求の状況や進捗状況が見える化されており、探求の良し悪し全てを把握した上で同じ解釈、同じ方向へ進んでいるからこそ探求が成し遂げられるのだと改めて感じました。

探求の際に、同じようなテーマで探求を始めた場合に使用する資料も重複するのではないかと思います。生徒が一人でも何冊も本を活用する際に必要とする書籍が重複した場合はどの様に対応しているの

しょうか？また、前は調べる際に生徒に付箋を貼らせているということでしたが、1冊の本を別の生徒が利用した場合（1限目はAさん、2限目はBさんと言うふうに）同じ本に付箋を貼ると自分が貼った付箋がわからなくないませんか？何か工夫をしているのでしょうか？(市立中学校学校司書)"

※重複はあまり最近問題になっていなかったような？ 私が気づいてないだけ？ もちろんある種の主題の基礎的な本を複数の生徒が必要とする場合もあります。ただ蔵書には基礎的な本も複数冊あるのであまり問題になってないのかもしれませんが。またもう少し踏み込んで題材の絞り方をすると、それぞれ使う本はばらけて重複しないような気がします。ただし蔵書がいまほど育っていなかった時期は、公共図書館を前もって検索して「こんなにあるんだから学校よりも公共頼りにしよう」といったこともよくあったと思います。

★>「教員も生徒のみならず保護者にも」そうですね、そうして理解して頂ければとも思っているのですが、過去を振り返るとここまでの手厚さというのは一種の「対策」でもあったのかなと思っています。本校の組織も一枚岩ではなく、色々なことがありましたから…。管理職も、他教科教員も、保護者も、「探究って大事だよ」「図書館教育凄いいよ」という流れができたのはごく最近の話ですね。地道にやるしかないのかなと思っています。

資料重複については先の方へお答えした通りです。やっぱり気になりますよねその点は。生徒のテーマが深まるほどに、そうした問題は希薄になっていくのかなと思います。

#### **横並びの授業 / 卒業論文の段階別評価 / 興味がある本を読むだけ。ノートにまとめるだけ。**

"(感想)毎度ありがとうございます。資料置き場や、過去の視聴もありがとうございます。いつでも振り返ることができて大変ありがたいです。

進捗状況のアンケート「なんでやねん情報(バイタルチェック)」も大変参考になりました。モチベーションも一緒に答えさせるのが、面白いなと思いました。担当の返答のそれぞれも面白く、生徒がつい読み込んでしまうのも、分かるような気がします。経過を追えるのは、教員側にもメリットがあるように感じますが、それに労力を避けるかどうかは鍵だなとも。(図書館担当としては、かなり前向きに取り組みたいです) 止めた方がいい・・・という情報を出すタイミングや最初の内は受け止めて泳がせると言う点にも励まされました。自校でも参考にして、アンケート取り組めるように提案してみます。ささいな質問にも反応頂けること、またおしみなく資料も提供頂けること、とてもありがたいと思います。次回も楽しみにしています。

(質問・2点)なんでやねん情報12月の提出時期に見られる、評価がBやDなど違いがあることについて、評価の基準を補足可能なら教えてほしいです。2点目。授業の形態として、各クラス探究の時間は、横並びでなく、別の時間割で取り組んでいるのでしょうか？本校は、横並びで金曜の終わりの1～2单元(全学年)が、探究の時間と割り振られているため、3学年が図書館に入り乱れる状況が発生しており、どうすれば良いのかで悩みます。(個別の質問をひろえない困り感は、今回のアンケートに活路を見出しました。このへん積み上げていくしかないと思いますが、どこから手を付ければいいのか…。本で調べたことを書きなさい+大きな空白のみが印刷されたプリント恐怖症です。後半ただの相談になってしまい申し訳ありません)(高等学校学校司書)"

※「やめた方がいいよ」と真っ先にいうのが片岡で、次に山崎さん、最後にやさしい南さんという順序があったような。そのあたり個性がでますね('◇')♪ 私は「さっさとやめな～」といってそれでもこだわってくるかをけっこう見ます。いわれてやめるようなら、所詮なが続きはしないし、止めてもやる子はやるだろうと。「中二病」研究はさんざん止めましたが、頑張りましたね。山崎さん評価基準あったら貼ってね。

総合を帯でする学校が多いのは承知しています。学年団+ $\alpha$ でやる場合が多いのでしょうか。LHRの延長的な感じですよ。県立高校にいたときもそうでした。そのとき探究学習をまかされたので最初の4回は4つの授業をつくって4クラスでそれを順繰りに回すようにしました。ウェビング・図書館・コンピュータ・あとなんだっけ…。古い話で忘れてしまいましたがとりあえずその4回は同じ授業を各担当が繰り返すという形で先生方の負担感を軽減したような…。今ふりかえっても苦労してますね…。

「本で調べたことを…」やることはそうかもしれませんが、「調べたい読みたいと思う本を手にする」方が先なのですね。そこまでが大変なんです。よ。「読みたくない本」で調べるとそれは「探究させられアライバイ学習」になりがちです。

★別の方へもコメントしたのですが、あのアンケートは教科指導の観点から見ればそれほど大変なものではなく(マルつけや成績評価と同じです)、むしろあれで心理的安全性のようなものが確保され、生徒のモチベーションが上がるなら、指導にも役立つなら、「コスパよし」の部類かなと思っています。総合は文言評価だけでOK、成績算出なしなので、そういう意味でも理にかなっていますよね。

評価基準、貼ってみました。でも、これもざっくりしたものですよね。D判定は最低ランクですが、論文の書式が整ってればもらえます。それ以上は大学の論文評価に近いかな。情報量、根拠の妥当性、論理的な整合性、そしてオリジナリティですね。流行りのループリックは評価疲れするだけなので使っていません。そんなも使用わなくても、自分の興でテーマを選べていて、1年かけて研究が大事なものになっていけば、自ずといい論文になっていきますし、卒論提出後も3月まで生徒はよく頑張ってくれます。昨年もほとんどの生徒が書き続けて、各自の評価を段階的に上げていきましたね（画像の「ボーナスステージ」の期間です）。

こういったワークから手をつければいいのか。それもけっこう、ざっくりしてますねうちは。面白いと思う分野の本を手に取り読む。付箋を貼って、その場所をノートにまとめる。これだけで半年間。そのあとは論文のフォーマットに落とし込んでいく…という感じです。へたにワークで授業を充実させるよりも、独学の方法を生徒に伝え、そのための時間を確保してあげる方がいいのだと思っています。

### 今回は興味とリテラシーの4象限

"たくさんの貴重な資料を公開していただき、大変ありがとうございます。じっくり拝読させていただいております。『よもやま\_1「興味」と「リテラシー」からみた生徒』に載っていた第Ⅲ象限に当たる生徒の話に興味があります。昨年単元での探究で興味をなかなか持てない生徒がおり、悩ましい思いでした。資料の最後にありました『アライバイ・コスパ学習観からの脱却』についてのお話をお伺いしたいです。  
(公立高校学校司書) (公立高校学校司書)"

※以前ちょっと出し惜しみしたことがあってですね、それがもう後味悪くて。それからみんなオープンにするようにしたんです。そのほうが、みなさんからこうしてコメントももらえて、新しいアイデアもでて、何より爽やかなんですね。授業もオープンですから（ですよね？）遊びに来て下さいね。第Ⅲ象限は一番面白い一群です。話したいです！"

★え、片岡先生が出し惜しみしたことなんてあったんだ…笑 6/21(土)の配信では、リクエストにお答えして、前半30分枠を第3象限の生徒の話に充てます。ご意見ありがとうございます～。

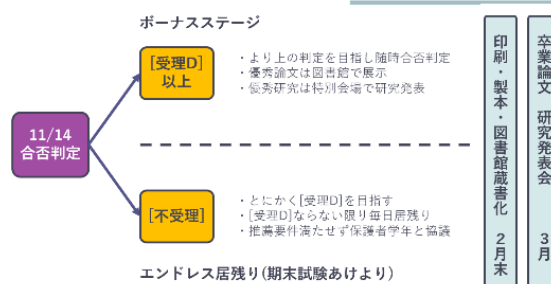
### ラジオテーマの生徒 / 「好き」からどう掘り下げるか

#### [受理D]に必要な要素



- ・上記が全て揃っている
- ・問いと結論が対応している
- ・FWが実施、報告されている

評価基準	
S	調べただけに留まらない、研究のオリジナリティがある テーマ設定、FW内容、自分の調査・意見・考察もよい
A	根拠が十分あり、問い&結論と根拠が対応している 集めた文献の要約に留まっている/自分自身の調査、意見や考察に乏しい
B	研究テーマに沿った章の構成になっている FW内容とテーマに関連性がない/根拠に乏しく自論の展開に留まっている
C	分量がある(20ピース以上) & 参考文献をそこそこ読んでいる 章構成に旅絡がない/各章に関連性がない/テーマが定まっていない
D	体裁が整っている 体裁だけはあるもの他はダメダメ/読書・勉強不足



"今回も大変充実した時間をありがとうございました。生徒さんがテーマとしてラジオを挙げていることに驚きました。FM802のリスナーだった(?)私にとって、ラジオという響きは非常に懐かしかったです。進捗状況のアンケートからは、生徒さん一人ひとりが懸命に取り組んでいる様子がかがえ、それに対して先生方が丁寧にコメントされているのが印象的でした。記録を残すことの重要性を改めて認識しました。また、それが他の生徒さんにも見える形で共有されていることがすてきだと思いました。「好き」をテーマにすると、元々好きなことだから知識は豊富で、きっと文献も興味をもって読めるのかな?と思います。「さらに詳しくなったぞ!えっへん!」で終わらせず、どの角度から「好き」を掘り下げていくのか…難しさの中に面白さがあると感じました。また、思いついたことをまとまりなく書いてしまい、申し訳ございません。(小学校教諭)"

※私たちは「好き好きテーマ」と呼んでいて、「自分の好きを確認するだけならやめときー。ディズニーランドが好きな理由はだいたいみんな同じだよ」などとイヤゴト言ってます。本当に好きならばその題材の中に必ず問題があるはずで、それを見つけるまで掘り返さないで。

★FM802 好き、いまだに学年に数名はいますよ～。ちょこちょこ論文のテーマにあがります。僕も中学の頃はラジオっ子だったので感慨深いです。テレビでも、ネットでも、SNS でもない何かが、いまでもラジオにはあるんでしょうね。

「好き」をテーマにの難しさ、ありますよね。読書し研究していれば自ずと「好き」は「社会」と接続されます。経営的視点や社会課題、文化人類学 etc...。そのダイナミックさが、中高生の探究を支援していて面白い点ですね。でもそれは、ひよっとすると小学生には難しいかもなあ、早すぎるよなあ…てなことを、いぜん小学校の先生と話したときに話題にしました。小学生なら、「好き」「面白い」「えっへん!」の世界でいいんじゃないかなあと思うのです。その次の段階が中高なのだろうと。そして、中・高の間にもやはり大きな差があります。根幹に「興味があることを」を大事にしつつ、それぞれの学齢に応じた設定があるんでしょうね。"

### **アンケートは「血液検査」であり「交換日記」/「先生は指導、司書は支援」でいいのか?**

"探究の進み具合に関して、月1回血液検査のようにアンケートをとってくれるというのは、自分が生徒だったらとても嬉しいです。学校で先生に何か書いて出さなきゃいけない時は、たいてい評価や成績をつけられるものですが、このアンケートは違う。交換日記みたいなものです。少しでも一緒に考えてくださる人がいるということは、大変羨ましい。

自分は司書でしたので、「先生は指導、司書は支援」ということを(教育委員会等から)散々言われてきましたが、探究学習における指導と支援の違いは何でしょうか。支援は具体的な文献紹介やレファレンス、指導はもっと包括的なサポートというようなイメージがありますが…

好きなものについて考えていくと、業界や産業の在り方についての探究に行く人が一定数いるのが面白いと思いました。一過性のキャリア教育より、キャリアについて深く考えることができるのではないかと、思いました。(元中学校司書)(学校司書モデルカリキュラム受講生)"

※こと題材選びに関しては「司書は支援、先生も支援」ですね。探究学習はそれしかないような。指導して鼻づらを引き回しても生徒は自分の興味は見つけられないからです。論文作成に関しては指導、

しかもけっこう鬼軍曹かもしれません('◇')と というのも論文、特に引用のルールが守れないのはだいたい世の中に対して失礼な場合が多いので（ひどいときは情報ドロボウなので）赤ペンでうりゃうりゃ添削をします。あとは、文章「指導」かな。これも酷いこと書きますよ。「で?」とか「わからん」とか。山崎さんほどじゃないけど。

★なるほど「交換日記」ですか。たしかにそうかも。どこか「指導」的な側面というよりは、流行りの言葉でいうなら「ケア」に近いのかなと思っています。話を聞く。それだけなんですよね。それするだけでいい探究学習ができるなら、安いもんです。

「先生は指導、司書は支援」的な言い方、学校図書館の理論としてはそう言われるんですけど、僕は危うさがあると思っています。教育委員会も学校司書モデルカリキュラムも司書教諭課程も…おそらく同じ論調だとは思いますが。現場で働いていると、仕事を明確に分けること、役割を明確に分けること、生徒への接し方を明確に分けることの危うさがあります。その危うさが、司書・司書教諭・他の教諭との関係や雇用など、学校図書館業界の根っこでよくない現状を生んでいると考えます。

生徒と接するときの在り方って、もっと多面的ですよ。教委がというような簡単な整理は難しいし、そのことに、この学校図書館に携わる色々な立場の人が気付いた方が良い。事務職員採用でありながら、教員免許も司書免許も持っていて、どちらかといえば授業担当の仕事が中心になりつつも生徒の日常的な図書館利用にも応えている…みたいな、僕のような中途半端な人間だから見えるのですが。

片岡先生が言うように、文章「指導」ではときに厳しいことも書きます。やっぱり論理の世界です。し。「山崎は喋ると優しいのに、添削は怖い」と生徒にはよく言われます。一方でテーマに悩んでるだとか、モチベが低いだとか、研究で困ってる、文献で困ってる…みたいな部分ではやっぱり「支援」（というか「ケア」）的な関わりですよ。それは先生だから、司書だから、とか関係ないはずなんです。学校や先生の在り方そのものが問われた方がいいし、「そこと学校司書は全然違うんだ」みたいな話でもないと思うのです。

### 先生が探究すればいい / カリキュラムマネジメントがないとにっちもさっちも

"楽しみながら拝聴させていただきました。本校の探究活動には根深い問題が多くあり、そのことを変えるには、まずは探究を知らない教員の意識改革と、カリキュラムの大手術が必要になりそうです。

私立で同じところに30年もいると、自分の学校がそれが出来るかと考えた時、かなりのパワーと協働体制がなければ出来ないと容易に想像でき、二の足を踏んで月日が流れて行きました。私自身も、あと終わりが見える年齢になり、今しかないのでは…と思うようになりましたが、本校は慢性的な人手不足のため図書館業務は一人仕事、その上に図書館以外の仕事も多く、探究活動に全力で向き合えない自分がいます。レファレンスのできる図書館作りは、どこから手をつけたらよいのでしょうか？(私立高校学校司書)"

※「探究を知らない教員」がいても、「これから知ればいい」と思っています。あちこちで「ミニ調べる学習」のワークショップをしているのはそのためで、100の説法より1の探究学習の実践です。自分で題材決めて資料を集めて、まとめるのがいかに大変で楽しいかを知っていただくのが遠回りなようで早道と今は思っております。「題材に優劣はありません」「読みたい本が3冊手に入れば調べる学習は成功したも同じ」「自分の興味を学べればみんな正解・満点です」「題材（テーマ）は変わってもい

い、変わってあたりまえ」「テーマを変えたい派良い知らせ」などとにかくいってます。…とはいうものの「コップと水差し」の「水差し」を何十年もしていると、「自分で水を探しに行くコップ」が想像できなくなっているかもしれませんね…。

★図書館がレファレンスで活用されるかどうかは授業にかかっているので、授業に関われなければ本当に、なんともならないと思います。授業があって、活用されて、そこから普段の図書館利用も増える。たぶんこれができないから現下の学校図書館は困難を抱えているのだと。じゃあ授業も一人の先生の方でどうにかできるかという、それがまた難しいんですね。教育課程上の位置づけを踏まえ、どのように一つの授業でなく学校全体のカリキュラムを作っていくか。本校で言うなら中学総合学習は上手くいっていますが、高校総合探究はダメダメです。それはもう学校全体をあげた動きになります。そこに「司書」あるいは「司書教諭」的なポジションの人がどれだけ関わることができるのか。もうそこからですよね。けっきょく根回しと、実績です。いかにも組織経営っぽいですね。